

# 湖に星の散るなり

(昭和十六年寮歌)

切替辰哉君 作歌  
岡田和雄君 作曲

## 一

湖に星の散るなり幽けさよ松の火燃えて  
漕ぎ出づる愛奴の漁舟の岸辺佇ち沁々眺む  
旅の日ははや暮れゆきぬ夢に酔ひ夢にぞ歎かん  
汚れなき心を慕ふ大いなる支笏の湖よ  
花若く我汝が許に希望満ち今宵宿らん

## 二

轟けるかの雄叫びよ創造の歷程一路  
新しき使命に捧ぐ幸の今日にしあれば  
忍苦して欣求むるところ得べくして得べからざりし  
秀麗はしきまことの道ぞ近くして遙かなる哉  
若き世の秩序を背負ふ洋々の日と俱にゆかなむ

## 三

乾坤に伏し祈るなり栄光あれ祖国の生命  
決意する光眩ゆく手に取りぬ楡の嫩葉  
葉脈の強きを讃ふ草々のたふれ生れて  
春青み辛夷咲くなり逍遙の原始林蔭清く  
暢び行かん我が民族の逞しき息吹き感じぬ

## 四

立て歩め光の中を國民の重き責任負ひ  
燦めきの星辰は語らひ微香る大地囁きぬ  
甦生へる征覇のいくさ祝歌ふ吾等が双頬に  
失はじ高きが矜持護り来し伝統の法火  
浄らかに燃え熾る刻継ぎ行かな来ん若人に